

キャリア教育だより 第7号

発行元：相模原市教育委員会キャリア教育推進チーム / 令和6年2月発行

縦の接続

鳥屋学園における キャリア・パスポートの活用事例を紹介します！

鳥屋学園では

「小中一貫教育の取り組みに向けた“縦の教育活動”の実践」をテーマに、「自ら未来を切り拓き、鳥屋で育ったことに誇りを持つ人材の育成」をめざして研究を進めてきました。

前期課程・後期課程の教職員で、めざす子どもの姿である「自分の考えを持って、発信できる子」を共有し、その姿を意識した教育活動を行っています。

【めざす子どもの姿】

自分の考えを持って、
発信できる子

取組① 教員間でキャリア・パスポートを見合う。(2学期始め)



全教員で学園生のキャリア・パスポートを見合いました。教員が書いたコメントの内容に話題が及びます。



活動の終了を告げても、多くの教員がその場に残って、学年を超えてキャリア・パスポートを見ていました。

取組②-1 全体学活において、学園の仲間に自分の思いを伝え合う活動の実施。(2学期終わり)

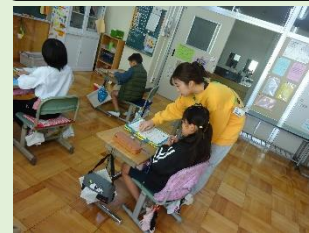


1～9年生が縦割り班のメンバーを中心に、感謝の思いをふせんに書いて伝えます。

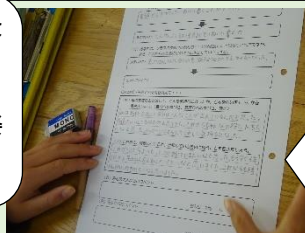


伝える側も、伝えられる側も、なんだかうれしそうです。

取組②-2 全体学活後、キャリア・パスポートに記入する時間を設定。(2学期終わり)



教員と関わりながら、2学期の自分を振り返る姿がありました。



記述を見ると、取組②-1を通して自分の良さを自覚している様子を見取ることができました。

教員が【児童生徒理解】を深め、学園生が【自己理解】を深める

取組①では、教員がキャリア・パスポートを活用して、【児童生徒理解】につなげようとする姿がありました。学園生の記述はもちろんですが、それに対して教員がどうコメントしたかを話題に、現在の担任と、元担任とがそれぞれの見立てを語り合っていました。前年度に校内で実施したキャリア・カウンセリングについての研修が活かされた姿といえます。

取組②では、キャリア・パスポート(2学期の振り返り)に記入する前に、全体学活において、2学期の活動を共にした学園の仲間と、お互いの良さを伝え合いました。キャリア・パスポートに記入する前に、全体学活を設定することで、学園生が自分の良さを自覚し、キャリア・パスポートの記入を通して【自己理解】を深めることにつながりました。

【キャリア・カウンセリングについて】

日々の教育活動の中で、子どもが学んだことや成長したこと等に着目し、一人ひとりの状況に寄り添った「意図のある言葉かけ」を意識することが大切です。

子どもがまだ言葉や文章にできていないことを言語化・意識化できるよう支援していくことが重要です。



キャリア・カウンセリングに関する研修の様子(R4年度実施)